



パブリックセミナー

沖縄・洞爺湖、2つのG8サミットを超えて：「保健と開発」の新たな発展

2010年2月26日（金）午後3時15分～4時45分
国連大学 エリザベス・ローズ国際会議場（5階）

プログラム

- 15:15-15:20 **開会挨拶**
山本 正 （財）日本国際交流センター理事長、世界基金支援
日本委員会ディレクター
- 15:20-15:45 **プレゼンテーション**
ミッシェル・カザツキン 世界エイズ・結核・マラリア対策基
金（世界基金）事務局長
クリストフ・ベン 世界基金渉外・パートナーシップ局長
- 15:45-15:55 **コメント**
尾身 茂 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門
教授、名誉世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局長
- 15:55-16:45 **討議**
モデレーター：山本 正

ミッシェル・カザツキン (Michel D. Kazatchkine) 世界エイズ・結核・マラリア対策基金事務局長

HIV/エイズを専門に治療、研究、政策形成に従事する医師。1980年代前半にフランスでエイズ患者が確認され始めた初期の頃よりエイズ治療に携わり、パリにエイズ専門の夜間診療クリニックを開設し、匿名性を尊重した治療にあたってきた。1998年に国立エイズ研究所の所長に就任。カザツキン氏の在任期間中に、同研究所はフランス国内におけるエイズ研究から、アフリカをはじめとする開発途上国でのエイズ治療に重点を移し、アフリカや東南アジア、中南米、東欧の多くの国でエイズ対策プログラムに従事した。また、ポンピドー病院免疫学部長、WHOのHIV/エイズ技術戦略諮問委員会代表および結核技術戦略諮問委員を務めた。2005年2月にフランス政府のグローバルエイズ・感染症問題担当大使の任を受け、ミレニアム開発目標の達成に尽力すると共に、国際医薬品購入ファシリティ（UNITAID）の創設におけるフランス政府の同機構への参加に大きく貢献した。世界基金では、技術審査委員会の初代議長、理事会副議長を務め、2007年4月より現職。

尾身 茂

自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門教授、名誉世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局長、WHO 執行理事

1978年自治医科大学卒業。東京都衛生局、旧厚生省等を経て、1991年に世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局に入職。小児麻痺(ポリオ)根絶に貢献した。1999年2月WHO西太平洋地域事務局の第5代地域事務局長に就任(～2009年1月)。SARS対策で陣頭指揮を執る。2009年2月から現職。その他、2009年4月より財団法人結核予防会顧問、同年5月より新型インフルエンザ対策本部専門家諮問委員会委員長、WHO執行理事、2010年1月より世界基金支援日本委員会委員等を務める。

クリストフ・ベン (Christoph Benn)

世界エイズ・結核・マalaria対策基金 渉外・パートナーシップ局長

熱帯医学と公衆衛生を専門とする医師。宗教学と社会倫理学の修士号も持つ。タンザニアのルーテル教会病院長を数年務め、タンザニアのエイズ対策プログラムにコーディネーターとして関わった。1998年から2003年までドイツ医師団(German Institute of Medical Mission)の副所長として、ボツワナ、ケニア、ロシア等における抗レトロウィルス薬によるエイズ治療のパイロット・プロジェクトを支援した実績を持つ。また、ドイツの保健・開発NGO数百団体が加盟するNGOネットワークAction Against AIDSの設立を主導した。同時に、世界教会協議会(WCC、ジュネーブ)のHIV/エイズに関する作業部会のモデレーターを務め、2001年には、WCCを代表して国連エイズ特別総会に出席した。世界基金では、2002年1月より2003年1月まで初代理事(先進国NGO代表理事)を務め、その後現職。渉外・パートナーシップ局長として、世界基金と他の国際機関、NGO、民間企業等とのパートナーシップ構築や、広報、資金調達を統括する。

山本 正

(財)日本国際交流センター理事長、世界基金支援日本委員会ディレクター

1970年に日本国際交流センターを設立。政策課題を中心とした日本と諸外国との知的交流・対話、日米議員交流、地域交流・NPOリーダー等の交流、日本におけるシビル・ソサエティ確立のための諸事業を実施する。2004年3月に世界基金支援日本委員会を立ち上げ、その幹事役を務める。上智大学哲学科を経て、米国セント・ノーバート大学を卒業。1962年、ウィスコンシン州マーケット大学院より経営学修士号取得。

主催団体概要

世界エイズ・結核・マラリア対策基金

The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria

人間の生存と安全を脅かす三大感染症（エイズ、結核、マラリア）の危機と闘うため、世界各国の協力を得て途上国の感染症対策を支える資金を提供する基金。2002年1月にスイスの法律に基づく民間財団として設立された。各国の政府拠出や民間財団の寄付等、官民が共同で拠出し、政府、国連機関、NGO、学界、企業および感染症に苦しむ人々などの協力のもとに、開発途上国におけるこれら感染症の予防、治療、感染者支援のための資金を提供している。2010年1月現在、世界140カ国に対して総額約187億ドルの支援が承認されている。世界基金は、開発途上国の結核対策に対する国際支援の57%、マラリア対策では60%、エイズ対策支援では23%を占めるなど、感染症対策を支える重要な資金源となっており、これにより490万人の命が救われたと推計されている。



Investing in our future

The Global Fund
To Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria

Chemin de Blandonnet 8, 1214 Vernier, Geneva, Switzerland

Tel: +41 22 791 1700 Fax: +41 22 791 1701

URL: www.theglobalfund.org

世界基金支援日本委員会

Friends of the Global Fund, Japan

世界エイズ・結核・マラリア対策基金を支援する民間の委員会として2004年3月に発足。森喜朗前総理を会長に、国会、政府、学界、経済界、NGO、労働界の有識者16名で構成され、(財)日本国際交流センターが事務局を務める。世界基金に対する理解の促進、エイズを始めとする感染症に対応できる環境づくり、東アジア諸国間の国際協力の促進を目的に緒事業を実施している。



世界基金支援日本委員会

Friends of the Global Fund, Japan
Joining the Fight Against AIDS, Tuberculosis and Malaria

〒106-0047 東京都港区南麻布4-9-17

(財)日本国際交流センター内

Tel: 03-3446-7781 Fax: 03-3443-7580

E-mail: fgfj@jcie.or.jp

URL: <http://www.jcie.or.jp/fgfj/>

(財)日本国際交流センター

Japan Center for International Exchange

国際関係や政治・経済・社会など幅広い政策課題をめぐり日本と諸外国の相互理解と協力関係を促進し、国際社会の発展に寄与することを目的として1970年に設立された民間の事業型財団。国内外の機関との幅広い協力により、国際的な政策対話や共同研究、議会関係者の交流・対話、民間非営利セクターの強化や地域社会の国際化を目的とした調査・交流・助成など、非営利・非政府の立場から幅広い国際交流事業を実施している。



〒106-0047 東京都港区南麻布4-9-17

Tel: 03-3446-7781 Fax: 03-3443-7580

E-mail: admin@jcie.or.jp

URL: <http://www.jcie.or.jp/>